

相模原市中央区におけるオオクワガタの拾得例

嶋本 習介¹・伊藤 雄一²

¹相模原市立博物館 ²(株)東急コミュニティー

カブトムシ・クワガタムシなどの昆虫の飼育が盛んになった、2000年代以降、飼育個体の野外への逸出や遺棄、放虫の問題が顕在化している。実際に、神奈川県内においても、逸出由来と考えられるクワガタムシ類(平野, 2018a)やコガネムシ類(平野, 2018b)が報告されてきた。

クワガタムシ科の一種であるオオクワガタ *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse, 1874 は、日本では北海道南部から種子島にかけて分布する(Yamamoto, 2023)。本種は神奈川県では絶滅危惧I類に選定されており(平野, 2006)、以前は多くの記録がされているものの(平野, 2004; 渡辺, 2011)、最新の報告が相模原市緑区の旧藤野町域における2008年の記録(河合, 2011)と、近年の報告はない。一方で、本種はペット昆虫として代表的で人気が高い種で、多数の個体が飼育市場に供給されている。そのため、前述の最新の報告例を含む、県内における確認個体の一部については、飼育個体の逸出に由来する可能性が指摘されている(生江, 2002; 河合, 2011)。

第二著者の伊藤は、2024年に相模原市中央区高根において、飼育逸出由来と考えられるオオクワガタの雄1個体を拾得しているので報告する。なお、検視個体は相模原市立博物館に収蔵される予定である。

検視個体データ 1♂, 相模原市中央区高根, 3. VIII. 2024, 伊藤雄一拾得。



図1. 相模原市中央区産オオクワガタ *Dorcus hopei binodulosus*

検視個体の拾得地は住宅街であり、学校と樹林地に面

した道路の歩道上で、午前8時半ごろにアスファルト上に落ちていたところを発見された。

拾得地に隣接した樹林地には本種が利用するクヌギやコナラが存在するものの、その規模はわずかであり、本種の生息には適していない環境である。それにもかかわらず、検視個体の形態は、良好な環境で生育したことを示す、大型かつ大あごのよく発達した「大菌形」であった。さらに、本個体には、跗節の欠損が見られる以外は目立った傷も無かった。以上の点から、検視個体は自然分布の個体ではなく、飼育個体の逸出等により、人為的に同地に持ち込まれた個体といえる。

末筆であるが、本報告にあたり、当該個体の保管および写真撮影等にご協力いただいた田子智大氏(相模原市立博物館)にあつくお礼申し上げる。

引用文献

- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌 2004, [II], pp. 335-835. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 平野幸彦, 2006. 甲虫類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 343-367. 神奈川県立生命の星地球博物館, 小田原.
- 平野幸彦, 2018a. クワガタムシ科 Lucanidae. 平野幸彦編, コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌 2018, [II], pp. 358-360. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 平野幸彦, 2018b. コガネムシ科 Scarabaeidae. 平野幸彦編, コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌 2018, [II], pp. 360-374. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 河合秀樹, 2011. 神奈川県相模原市藤野町におけるオオクワガタの記録. 神奈川虫報, (174): 110-111.
- 生江広明, 2002. 神奈川県藤沢市でスマトラオオヒラタクワガタとオオクワガタを採集. 月刊むし, (382): 16.
- Yamamoto, S., 2023. The Southernmost Record of *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse, 1874 (Coleoptera, Lucanidae) from Tanega-shima Island, the North Ryukyus, Southwestern Japan. *Elytra*, New Series, 13(2): 287-291.
- 渡辺康生, 2011. 大磯丘陵の甲虫目. 神奈川虫報, (174): 67-99.